1　調査の目的

平成 18 年度にスタートした「新米子市総合計画（米子いきいきプラン）」の数値目標の進捗状況を把握し、今後の計画推進に役立てるため、平成 20 年度分の進捗状況調査を実施した。

2　調査対象

新米子市総合計画基本計画の数値目標 71 項目を対象とした。

なお、数値目標のうち、「・・・している市民の割合」の 10 項目については、平成 20 年 5 月に実施した市民意識調査の結果とした。

また、制度改正により数値目標の指標名を 1 項目変更した。

変更前	変更後
定期健康診査受診率	特定健康診査受診率

【進捗状況調査対象数】

区　　分	数値目標の総数
第 1 章　子育てを応援し、お年寄りが元気な米子	１６
第 2 章　ゆとりある心豊かな米子	２９
第 3 章　活力みなぎる米子	２２
第 4 章　みんなのための市役所	４
数値目標数	７１

3　目標達成度

目標達成度は、その状況から、つぎの「Ａ～Ｄ」の４つの区分に分類した。

Ａ＝目標値を達成している

Ｂ＝概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みである

Ｃ＝進捗状況が停滞しており、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要がある

Ｄ＝基準値（17 年度現状値）を下回っている

4　調査結果

調査対象の数値目標数 71 項目のうち、既に目標値に達成したもの 22 項目（31.1%）、概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見込みのもの 21 項目（29.6%）で、合わせると 43 項目（60.6%）となり、全体の数値目標のうち約 60 パーセントは順調に進捗している。

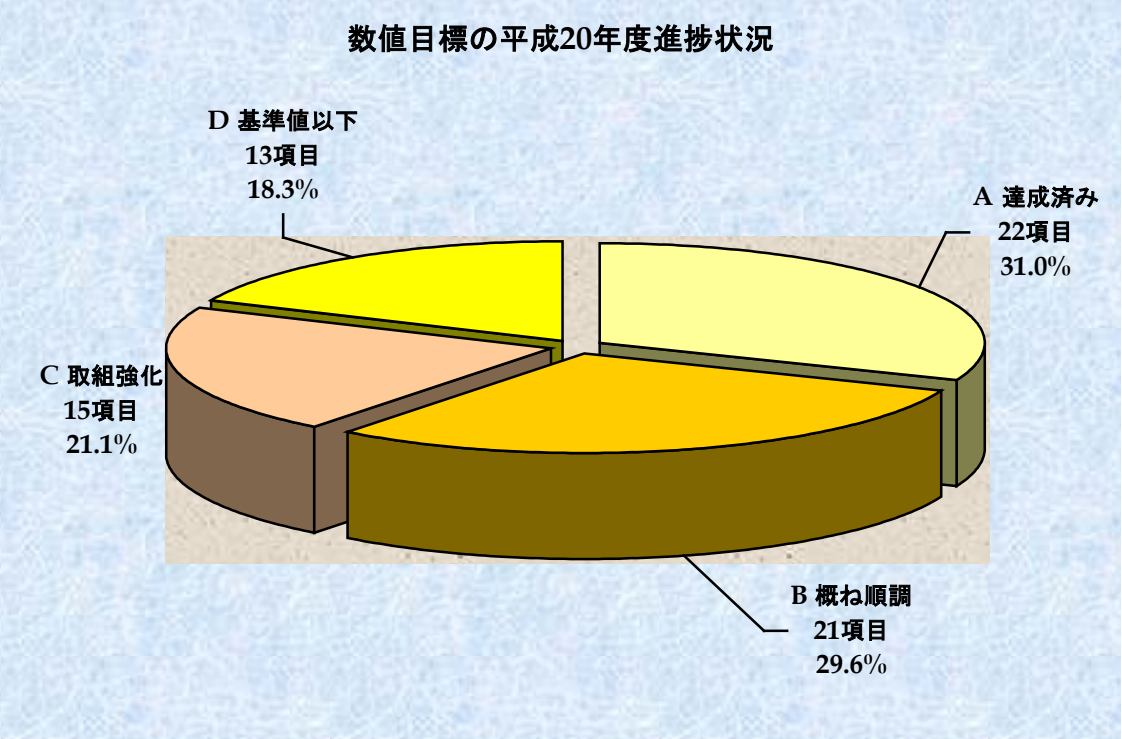
ただし、基準値（平成 17 年度の数値）よりも下回っているものが 13 項目（18.3%）、目標を達成するためには取り組みを強化していく必要があるものが 15 項目（21.1%）あるので、数値目標のうち約 40 パーセントは、目標実現に

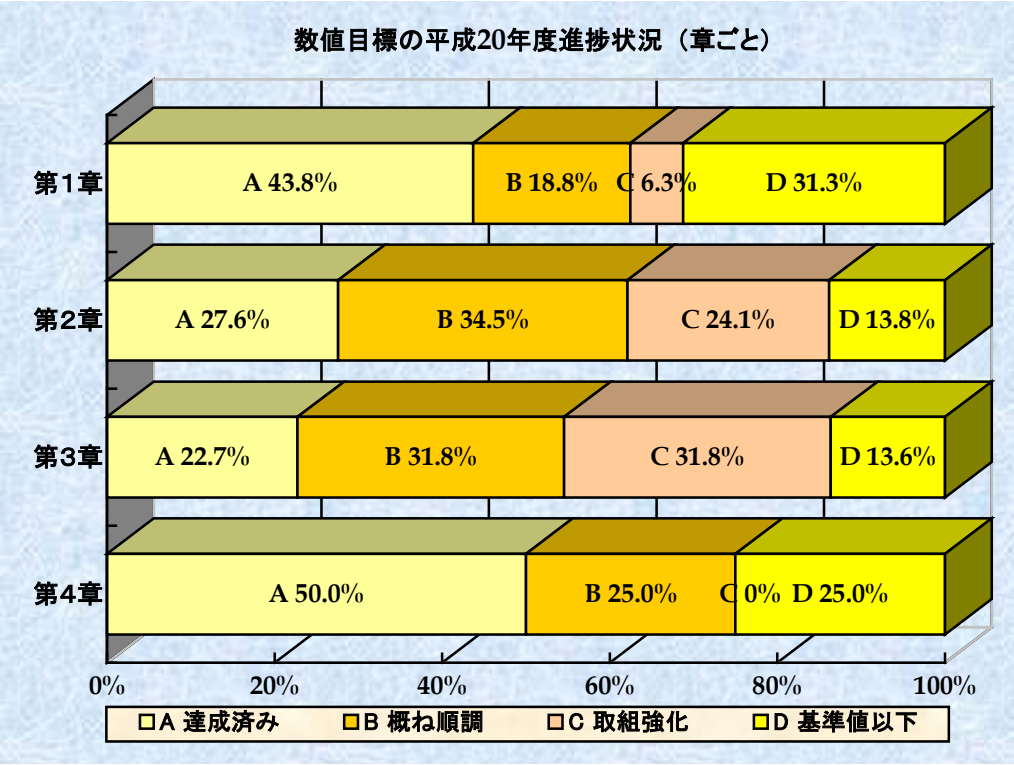
向けて更なる取り組みの強化・充実を図る必要がある。

また、昨年度と比較すると、既に目標値を達成済した項目は５項目増加しているが、概ね順調に進捗している項目が９項目減少し、また、目標を達成するためには取り組みの強化が必要な項目が４項目増加した。

対象目標数	A 達成済み	B 概ね順調	C 取組強化	D 基準値以下
第１章　１６	７（43.8%）	３（18.8%）	１（ 6.3%）	５（31.3%）
第２章　２９	８（27.6%）	１０（34.5%）	７（24.1%）	４（13.8%）
第３章　２２	５（22.7%）	７（31.8%）	７（31.8%）	３（13.6%）
第４章　４	２（50.0%）	１（25.0%）	０（ 0.0%）	１（25.0%）
７１	２２（31.0%）	２１（29.6%）	１５（21.1%）	１３（18.3%）

（注）表示単位未満を四捨五入してあるので章ごとの割合の合計が 100%にならない場合があります。

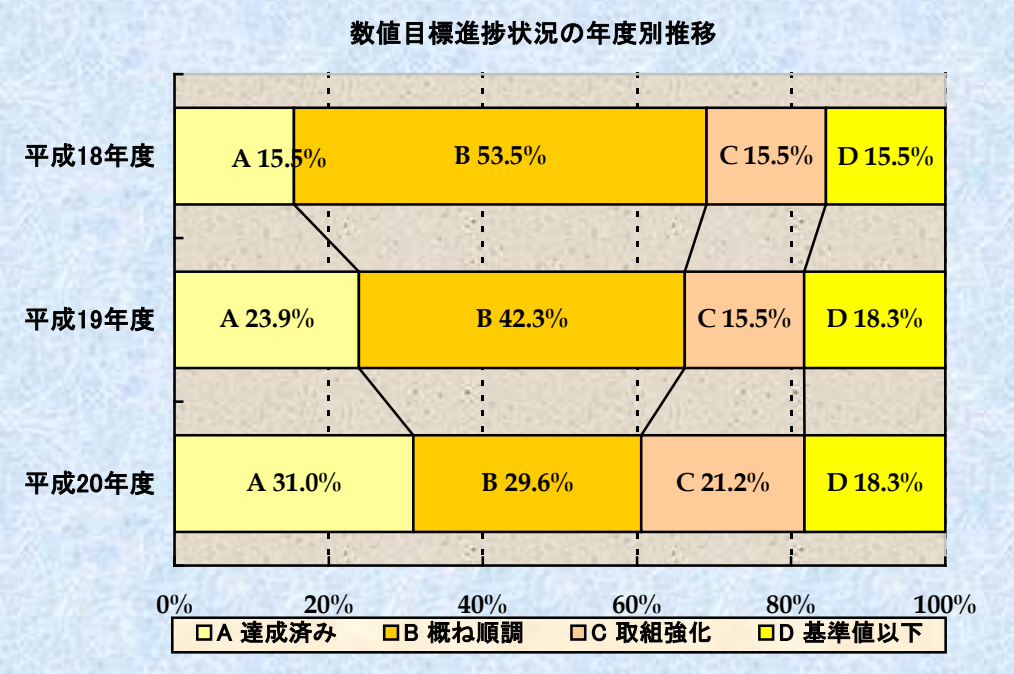




（注）表示単位未満を四捨五入してあるので章ごとの割合の合計が 100%にならない場合があります。

【年度別進捗状況】

年　度	調査対象の数値目標数	A 達成済み	B 概ね順調	C 取組強化	D 基準値以下
平成 18 年度	58（100%）	9（15.5%）	31（53.5%）	9（15.5%）	9（15.5%）
平成 19 年度	71（100%）	17（23.9%）	30（42.3%）	11（15.5%）	13（18.3%）
平成 20 年度	71（100%）	22（31.0%）	21（29.6%）	15（21.1%）	13（18.3%）



5　政策分野別の進捗状況

（１）第１章　子育てを応援し、お年寄りが元気な米子

調査対象の数値目標数 16 項目のうち、「１歳６ヶ月児健康診査受診率」、「結核予防接種（ＢＣＧ）累積接種率」、「65 歳以上の高齢者のうち、介護保険要介護者にあたらない人の割合」、「認知症高齢者出現率」、「介護保険要介護者認定率」など７項目については目標を達成しているほか、「なかよし学級実施学級数」、「介護保険利用者における居宅サービス利用率」、「認知症予防教室参加者数」の３項目について概ね順調であり、62.5 パーセントが達成又は順調に進捗している。

しかし、「保育所入所待機児童数」、「特定健康診査受診率」、「通所型介護予防事業利用者数」の３項目は基準値を下回っている。

この分野では、基本健康診査から新たに特定健康診査に制度改正され、受診対象者が変更となったため、基本健康診査に比べ受診率が大幅に減少した。特定健康診査は、メタボリックシンドロームに着目した健診で生活習慣病の予防に効果があるので、周知、啓発を図り受診率の向上に努める必要がある。

また、保育所入所待機児童の解消のため、保育園の定員増の措置を行ったが、依然として待機児童が減少していない状況も見受けられるものの、健康に対する市民意識の高まりや高齢者の介護及び認知症予防対策、子育て環境について取り組みの成果が挙がっている。

平成20年度　数値目標進捗状況結果一覧

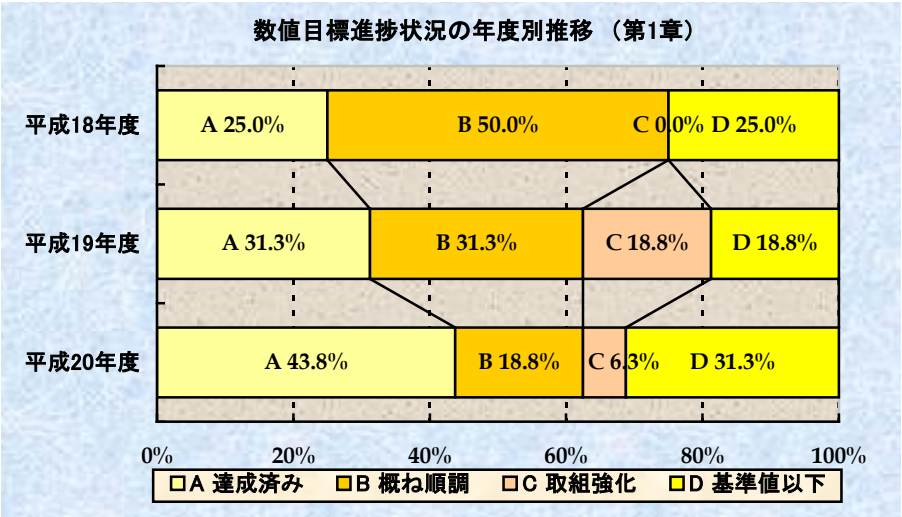
第１章　子育てを応援し、お年寄りが元気な米子							
指　標　名	現状値 17年度	18年度 実績値	19年度 実績値	20年度 実績値	目標値 22年度	目標 達成度	昨年度との比較
「病気予防、健康維持のための日頃の取り組み」をしている市民の割合	65.3%	－	70.2%	70.2%	70.0%	A	→
１歳６ヶ月児健康診査受診率	94.9%	97.3%	96.8%	98.2%	97.0%	A	↗
特定健康診査受診率	43.1%	44.8%	43.3%	30.0%	55.0%	D	↘
結核予防接種（ＢＣＧ）累積接種率	97.2%	98.1%	97.5%	98.6%	98.0%	A	↗
通所型介護予防事業利用者数	228人	68人	78人	111人	510人	D	↗
介護保険利用者における居宅サービス利用率	77.2%	77.4%	78.2%	77.5%	77.6%	B	↘
６５歳以上の高齢者のうち、介護保険要介護者にあたらない人の割合	81.0%	80.8%	81.3%	80.7%	80.6%	A	↘
認知症予防教室参加者数	－	480人	４50人	867人	900人	B	↗
認知症高齢者出現率	15.0%	14.0%	13.6%	12.9%	15.0%	A	↗

平成20年度　数値目標進捗状況結果一覧

第１章　子育てを応援し、お年寄りが元気な米子							
指　標　名	現状値 17年度	18年度 実績値	19年度 実績値	20年度 実績値	目標値 22年度	目標 達成度	昨年度との比較
「子育て環境整備」に関する市民の「不満足」「やや不満足」の割合	不満足 12.7% やや不満足 22.6%	－	不満足 11.5% やや不満足 8.5%	不満足 11.5% やや不満足 8.5%	不満足 6.4%以下 やや不満足 11.3%以下	C	→
保育所入所待機児童数	31人	36人	44人	47人	0人	D	↘
なかよし学級実施学級数	19箇所	20箇所	21箇所	22箇所	23箇所	B	↗
障がい者が暮らしやすく、社会参加できる環境が整っていると感じる市民の割合	19.0%	－	17.8%	17.8%	25.0%	D	→
福祉ボランティア団体に登録している市民の割合	2.6%	2.8%	2.7%	7.6%	5.0%	A	↗
国民健康保険料の徴収率（現年分）	88.41%	89.31%	89.36%	86.51%	92.00%	D	↘
介護保険要介護者認定率	19.0%	19.2%	18.7%	19.3%	19.4%	A	↘

【第１章　年度別進捗状況】

年度	調査対象の数値目標数	A 達成済み	B 概ね順調	C 取組強化	D 基準値以下
18 年度	１２	３（25.0%）	６（50.0%）	０（ 0.0%）	３（25.0%）
19 年度	１６	５（31.3%）	５（31.3%）	３（18.8%）	３（18.8%）
20 年度	１６	７（43.8%）	３（18.8%）	１（ 6.3%）	５（31.3%）



（２）第２章　ゆとりある心豊かな米子

調査対象の数値目標数 29 項目のうち、「児童１人当たりの年間図書貸し出し数」、「学校給食に置ける県内産食材の使用割合」、「白浜住宅建替え事業進捗率」など８項目については、目標を達成しているほか、「男女が平等に生活していく社会づくりが進んできていると思う割合」、「伯耆古代の丘整備事業の進捗率」や「汚水処理人口普及率」、「水洗化率」など 10 項目で概ね順調に進捗しており、合わせて 18 項目（62.1%）となって、他の分野に比べ目標達成度は高い。

特に、ごみの減量化については、平成 19 年４月から家庭ごみの有料化及び事業所ごみの収集廃止の実施、また、マイバック運動などゴミの減量化に対する市民意識の高まりにより、昨年度に引き続き減量化が図られている。
引き続き、市民啓発や生ごみ処理機への支援などごみの減量化、再資源化の取り組みを推進する必要がある。

また、公共下水道事業や合併処理浄化槽などの整備により、加茂川などの生活排水重点地域の水質浄化対策は着実に進んでいる。

しかし、「自治会に加入している割合」、「芸術文化鑑賞機会の提供に満足している市民の割合」、「人権教育地域懇談会の参加者数」など４項目は基準値を下回っており、また、「審議会等委員に閉める女性の割合」、「山陰歴史館・福市考古資料館・淀江歴史民俗資料館の年間入場者数」、「消防団員数」など事業が停滞しているものも７項目あり、市民との協働の取り組みを強化・充実しながら、目標達成に向けて努力する必要がある。

平成20年度　数値目標進捗状況結果一覧

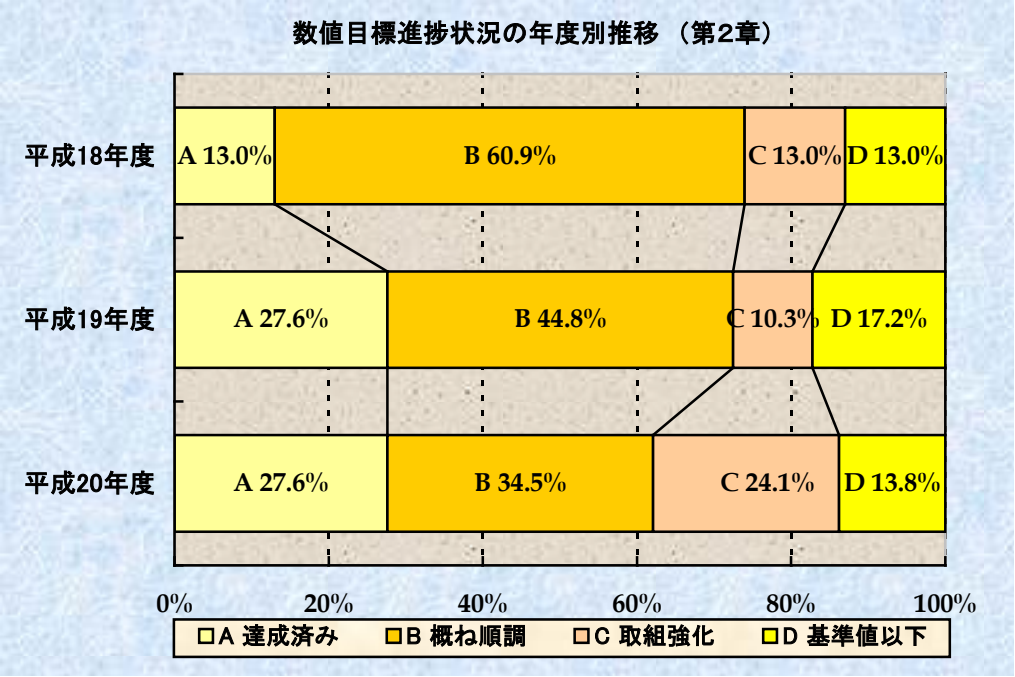
第２章　ゆとりある心豊かな米子							
指　標　名	現状値 17年度	18年度 実績値	19年度 実績値	20年度 実績値	目標値 22年度	目標 達成度	昨年度との比較
人権教育地域懇談会の参加者数	2,741人	2,624人	2,317人	2,256人	3,000人	D	↘
男女が平等に生活していく社会づくりが進んできていると思う割合	49.5%	－	50.6%	50.6%	60.0%	B	→
審議会等委員に占める女性の割合	31.4%	31.8%	29.6%	31.3%	40.0%	C	↗
児童１人当たりの年間図書貸し出し数	40冊	51.1冊	51.1冊	63.2冊	48冊	A	↗
校内ＬＡＮ整備率	54.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	A	→
学校給食における県内産食材の使用割合	44.8%	51.5%	53.6%	56.3%	50.0%	A	↗
生涯学習の機会の提供に満足している市民の割合	18.2%	－	17.6%	17.6%	20.0%	D	→

平成20年度　数値目標進捗状況結果一覧

第２章　ゆとりある心豊かな米子							
指　標　名	現状値 17年度	18年度 実績値	19年度 実績値	20年度 実績値	目標値 22年度	目標 達成度	昨年度との比較
中高生が子ども会のボランティア活動に参加している人数	200人	267人	317人	237人	350人	C	↘
米子市に住所を有する少年の万引き、自転車盗、置き引きなどの初発型非行者数	179人	145人	114人	125人	120人	B	↘
芸術文化鑑賞機会の提供に満足している市民の割合	16.8%	―	16.3%	16.3%	20.0%	D	→
山陰歴史館・福市考古資料館・淀江歴史民俗資料館の年間入館者数	9,699人	13,155人	12,176人	14,265人	30,000人	C	↗
「伯耆古代の丘整備事業」の進捗率	9.2%	21.2%	27.6%	36.4%	77.0%	B	↗
市民が週１回以上、スポーツ活動を行っている割合	21.4%	―	28.7%	28.7%	30.0%	B	→
「白浜住宅建て替え事業」の進捗率	0%	0%	44%	100%	100%	A	↗
「五千石住宅建て替え事業」の進捗率	0%	0%	0%	0%	28%	C	→
市民１人当たりの公園面積	10.39㎡	10.39㎡	10.39㎡	10.75㎡	10.43㎡	A	↗
準用河川の改修済み延長 （準用河川区間延長L=17.41km）	8.03Km	8.08km	8.13km	8.17km	8.28Km	B	↗
汚水処理人口普及率	68.0%	73.9%	76.0%	82.4%	85.1%	B	↗
水洗化率	82.8%	82.8%	85.4%	83.4%	85.7%	B	↘
米子市の景観を魅力的と感じる市民の割合	40.9%	―	44.8%	44.8%	43.0%	A	→
平成12年度を基準としたごみの削減率	5% （Ｈ16）	−4%	16%	18%	8%	A	↗
ごみのリサイクル率	15.9%	16.6%	17.9%	16.5%	21.0%以上	C	↘
消防団員数	498人	509人	509人	509人	530人	C	→
自主防災組織の結成率	27%	29%	31%	32%	37%	B	↗
公共建築物（昭和56年以前に建築）の耐震調査の割合	70%	73%	74%	79%	86%	B	↗
交通事故発生件数	1,043件	1,010件	917件	742	985件	A	↗
自治会に加入している割合	73.3%	71.8%	70.5%	69.8%	74.1%	D	↘
生活排水対策重点地域「加茂川・旧加茂川流域」、「大沢川流域」における施設整備によるＢＯＤ汚濁負荷量	「加茂川・旧加茂川流 466.9 kg/日 「大沢川流域」 560 kg/日	―	461.3 kg/日 523.1 kg/日	453.5 kg/日 504.4 kg/日	439.6 kg/日 532.1 kg/日	B	↗
市行造林地内で間伐・枝打ち等の作業を実施する面積	32.53ha	33.8ｈａ	46.67ha	23.48ha	35.00ha	C	↘

【第２章　年度別進捗状況】

年度	調査対象の数値目標数	A 達成済み	B 概ね順調	C 取組強化	D 基準値以下
18 年度	２３	３（13.0%）	14（60.9%）	３（13.0%）	３（13.0%）
19 年度	２９	８（27.6%）	13（44.8%）	３（10.3%）	５（17.2%）
20 年度	２９	８（27.6%）	10（34.5%）	７（24.1%）	４（13.8%）



（３）第３章　活力みなぎる米子

調査対象の数値目標数 22 項目のうち、「農作物を購入する際に地元産を優先する市民の割合」、「皆生漁港の北防波堤の延長」、「地元企業の産学官連携事業数」、「米子市のケーブルテレビ網カバー率」及び「コンベンション参加延べ宿泊客数」の５項目は目標を達成しており、「中心市街地商店街空き店舗への出店数」、「遊休農地解消面積」、「コンベンション開催件数」など７項目については、概ね順調に進捗している。

地産地消に対する市民意識の高まりや産・学・官の連携、コンベンションの活用などの取り組みが進んでいる。

また、中心市街地の活性化に向けた新たな事業展開も見え始めた。

しかし、「米子・皆生温泉周辺観光客入り込み客数」、「皆生温泉宿泊者数」及び「国際交流に参加したことのある市民の割合」の３項目で基準値を下まわり、「企業誘致件数」、「米子空港搭乗者数」、「米子市の地籍調査進捗率」など、取り組みの強化が必要なものが７項目ある。

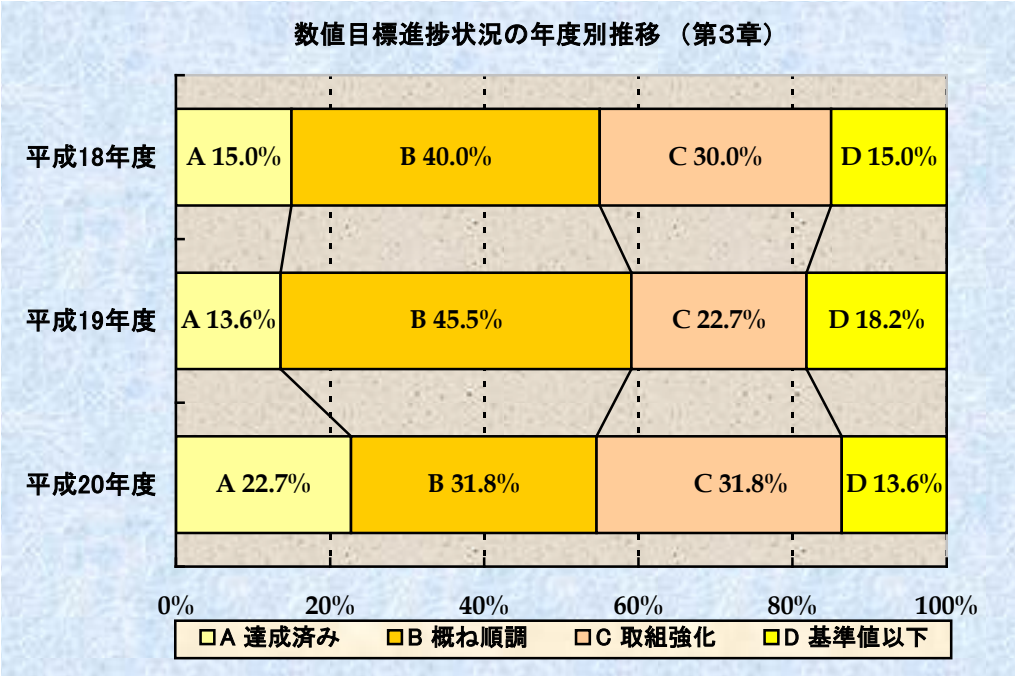
この分野は、社会経済情勢等の動向に影響される数値目標が多数あるものの、市民、関係機関との協力・連携を得ながら、目標達成に向けて一層まい進する必要がある。

平成20年度　数値目標進捗状況結果一覧

第３章　活力みなぎる米子							
指　標　名	現状値 17年度	18年度 実績値	19年度 実績値	20年度 実績値	目標値 22年度	目標 達成度	昨年度との比較
担い手の農地利用集積面積が地域の農用地に占める面積の割合	6.1%	7.7%	13.2%	13.6%	16.7%	B	↗
遊休農地解消面積	―	2ha	8ha	18ha	23ha	B	↗
担い手の数	38 経営体	46 経営体	86 経営体	88 経営体	101 経営体	B	↗
農作物を購入する際に地元産を優先する市民の割合	65.0%	―	74.6%	74.6%	70.0%	A	→
美保湾沿岸に設置した魚礁の設置箇所数	19箇所	19箇所	20箇所	20箇所	21箇所	B	→
皆生漁港の北防波堤の延長	151m	181m	181m	211m	211m	A	↗
日野川における天然稚鮎の遡上数	5.45万尾	40万尾	60万尾	72万尾	100万尾	B	↗
中心市街地商店街空き店舗への出店数	20店舗	23店舗	40店舗	44店舗	45店舗	B	↗
米子流通業務団地への進出率	43.5%	61.8%	77.0%	77.0%	100%	C	→
工業団地内への立地企業数	144件	145件	145件	145件	150件	C	→
地元企業の産学官連携事業数	2件	8件	12件	15件	12件	A	↗
企業誘致件数	12企業	12企業	15企業	15企業	17企業	C	→
米子・皆生温泉周辺の観光客入込み客数	127.7万人	138.3万人	137.0万人	120.7万人	150万人	D	↘
皆生温泉宿泊者数(入湯税対象客数)	47.8万人	44.7万人	44.7万人	43.6万人	50万人	D	↘
米子市の地籍調査進捗率	33%	33.2%	33.8%	33.8%	37%	C	→
幹線市道の整備延長 （実延長L= 141,922m 改良済L=125,105m）	125,105m	125,563m	125,714m	125,784m	126,968m	C	↗
米子空港搭乗者数	47.8万人	49.9万人	50.0万人	48.0万人	55.3万人	C	↘
米子市を通るバス路線数	30路線	27路線	27路線	27路線	30路線	C	→
米子市のケーブルテレビ網カバー率	93.9%	100%	100%	100%	100%	A	→
コンベンション開催件数	23件	21件	13件	26件	30件	B	↗
コンベンション参加延べ宿泊客数	8,285人	12,447人	4,226人	11,212人	10,000人	A	↗
国際交流に参加したことのある市民の割合	9.10%	―	9.0%	9.00%	10%	D	→

【第３章　年度別進捗状況】

年度	調査対象の数値目標数	A達成済み	B概ね順調	C取組強化	D基準値以下
18年度	２０	３（15.6%）	８（40.0%）	６（30.0%）	３（15.0%）
19年度	２２	３（13.6%）	10（45.5%）	５（22.7%）	４（18.2%）
20年度	２２	５（22.7%）	７（31.8%）	７（31.8%）	３（13.6%）



（４）第４章　みんなのための市役所

この分野は、調査対象の数値目標数が４項目と少数であるが、「地方債未償還残高」及び「市税の収納率（現年分）」は目標を達成しており、「人口１万人当たりの職員数」は概ね順調であり、着実に取組んでいる成果が挙がっている。

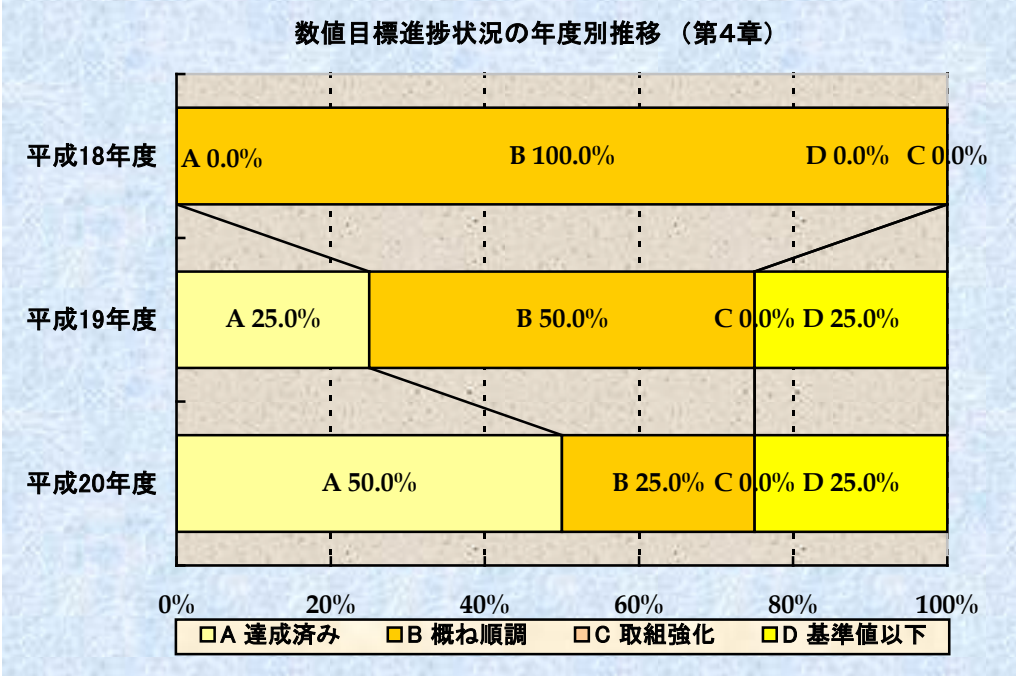
ただし、「経常収支比率」は基準値を下回り、昨年度と比較しても下落しているので、引き続き財政健全化に向けて行財政改革の推進が必要である。

平成20年度　数値目標進捗状況結果一覧

第４章　みんなのための市役所							
指　標　名	現状値 17年度	18年度 実績値	19年度 実績値	20年度 実績値	目標値 22年度	目標 達成度	昨年度との比較
地方債未償還残高（臨時財政対策債等特別債を除く）	600億円	583億円	587億円	540億円	560億円以下	A	↗
経常収支比率	87.4%	93.7%	92.8%	93.4%	85.0%以下	D	↘
市税の収納率（現年分）	97.7%	97.9%	98.0%	98.0%	98%以上	A	→
人口１万人あたりの職員数	69人	68.5人	66.9人	66.2人	65人	B	↗

【第４章　年度別進捗状況】

年度	調査対象の数値目標数	Ａ達成済み	Ｂ概ね順調	Ｃ取組強化	Ｄ基準値以下
18 年度	3	0 （0.0%）	3（100.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）
19 年度	4	1 （25.0%）	2 （50.0%）	0 （ 0.0%）	1 （25.0%）
20 年度	4	2 （50.0%）	1 （25.0%）	0 （ 0.0%）	1 （25.0%）



６　数値目標別進捗状況

指　　標　　名	基準値（Ｈ17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（Ｈ22）	目標達成度
「病気予防、健康維持のための日頃の取り組み」をしている市民の割合 【健康対策課】	65.3%	－	70.2%	70.2%	70.0%	Ａ

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

・ 健康フェスティバルを開催し、健康保持増進の啓発を行った。
　平成２０年１０月実施、延べ参加者数約１，４００人

・ 地区保健推進員会、食生活改善推進員会との協働による市民の健康の保持増進を図った。

・ 特定健診によりメタボリックシンドロームとその予備軍を発見し、基準値以上の者には特定保健指導を実施した。

・ 各種健康教室を開催し、生活習慣病予防の啓発を行った。
　いきいき健康ライフ教室　　男の料理教室
　生活習慣病予防教室　　生活習慣病予防食実習
　地区健康講座　　男性元気アップ教室
　各地区公民館祭健康相談への保健師、栄養士の派遣

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

健康フェスティバル、地区保健推進員会・食生活改善推進員会等地区組織との協働、各種健康教室の実施など健康づくり意識の普及、啓発に引き続き取り組む。

指　　標　　名	基準値（Ｈ17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（Ｈ22）	目標達成度
１歳６か月児健康診査受診率 【健康対策課】	94.9%	97.3%	96.8%	98.2%	97.0%	Ａ

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

取り組み

ごみ分別収集カレンダー＆健康ガイドに受診日、受診対象幼児の表示を行うとともに、１歳６か月児健康診査対象の全幼児に個別受診案内を送付し受診勧奨を行った。

健診未受診幼児の保護者に対し、個別通知により次月の受診勧奨を実施した。

次月においても未受診の場合には、保護者に対してアンケートの送付を行い、未受診の理由、幼児の現状把握等の記入を求め、状況把握を行った。

成果

個別通知による受診勧奨結果、未受診児の受診となった。

未受診児の保護者からのアンケート回答により、医療機関での経過観察中等未受診児の状況が把握可能となり、それに応じた対応が可能となった。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

上記の取り組みにあわせて、未受診児の保護者に対し、必要に応じて電話連絡、家庭訪問を実施し、幼児、保護者の状況把握を行い、受診勧奨を行う。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
特定健康診査受診率【健康対策課】	43.1	44.8	43.3	30.0	55.0	D

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

取組み状況：対象者全員に受診券の発送や市報・健康ガイド・ホームページ等での周知、地区保健推進員による受診勧奨、実施医療機関・地区公民館にポスター掲示等をおこなった。

成果：新しい制度に変わり、健診内容や対象者の変更・周知不足等により、基本健康診と比較し受診率が大幅に減少した。20年度目標値の45%に対し30%の受診率となった。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

- 前年度取組みに加え、地区健康講座、地区組織活動（地区保健推進員会・食生活改善推進員会）など、あらゆる機会を通して周知する。
- 初めて健診対象となる40歳の方に特定健診の受診勧奨の案内文を送付する。
- 健診実施医療機関に周知の協力依頼を求める。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
結核予防接種（ＢＣＧ）累積接種率 【健康対策課】	97.2%	98.1%	97.5%	98.6%	98.0%	A

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

取組み

毎月の市報及びごみ分別収集カレンダー＆健康ガイドに、集団接種日、接種対象児の表示を行うとともに、19年度から、未接種児の保護者に対して個別通知及び電話連絡を実施し接種勧奨を行った。

成果

接種率において９０%台後半を維持することにより、米子市内において乳幼児の結核発症が皆無となっている。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

上記取組みを今後においても継続し、目標の実現を図る。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
通所型介護予防事業利用者数 【長寿社会課】	228人	68人	78人	111人	510人	D

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

医療機関との連携強化により、介護予防が必要である特定高齢者の把握が進み、19年度と比較して約500人増の1,054人となった。それに伴い、通所型介護予防事業の利用者も増加した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

米子市の特定検診の受診者が大幅に減少したことにより、特定高齢者を把握するための生活機能評価の受診者も19年度と比較して約4,000名減の10,640名となった。今後は特定検診部局との連携を図り、生活機能評価の受診者の増加を図ることが、通所型介護予防事業の利用者の増加を図る上で大きな課題となっている。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
介護保険利用者における居宅サービス利用率【長寿社会課】	7.2%	77.4%	78.2%	77.5%	77.6%	B

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

要介護度が重度化することを防ぎ、できる限り住み慣れた自宅や地域で生活が継続できるよう、がいなみっく予防トレーニングやよなGo!Go!体操の普及などにより身体機能の低下の防止を図るとともに、意識啓発を図るための認知症予防教室などを開催し介護予防を推進した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

引き続きよなGO!GO!体操を始めとする地域での介護予防事業や、サービス整備・周知に努め、居宅サービス利用率の向上を目指す。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
６５歳以上の高齢者のうち、介護保険要介護者にあたらない人の割合【長寿社会課】	81.0%	80.6%	81.3%	80.7%	80.6%	A

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

地域包括支援センターを設置し、高齢者への総合相談や要支援者等への支援等の充実を図るほか、地域住民の意識啓発と「よなＧＯＧＯ体操」の地域での普及を図るため、介護予防サポーターを養成に取り組んだ。

また、「生きがいづくり運動」として各種趣味の教室を開催し、高齢者が生きがいを持って生活することへの支援を浸透させることで、要介護者の増加の抑制を図った。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

２０年度以降も地域包括支援センターと連携し健康づくりサポーターの養成に努め、地域での健康づくりの一翼を担ってもらうほか、要介護・要支援者になる恐れのある人を対象に、民間フィットネスクラブ等で適度な運動をしていただくための「がいなみっく予防トレーニング」事業を継続実施し、運動等を通じて元気な高齢者の増加を図り、もって自立して生活できる環境整備を図っていく。

指　　標　　名	基準値（H17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
認知症予防教室参加者数【長寿社会課】	—	480 人	450 人	867 人	900 人	B

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

市内 7 校区で以下のことを実施した。予防教室対象者の選定をタッチパネル式認知症スクリーニング機器により行い、境界層の人に対して３ヶ月の予防プログラムを実践していただいき、再検査の結果、ほとんどの人で改善が見られた。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

検診受診者の増加を図るため、認知症への正しい理解を図るための講演会及び学童への絵本教室の開催など、地域住民への広報活動を充実させる。

指　　標　　名	基準値（H17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
認知症高齢者出現率【長寿社会課】	15.0%	14.0%	13.6%	12.9%	15.0%	A

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

地域においては、各地区公民館で認知症をテーマにしたものも含め、介護予防の講演会開催に取り組んでいただいた。

地域包括支援センターによる介護予防教室の中で講演等を行い、認知症に関する正しい知識の普及と意識啓発を行うとともに、認知症に陥る可能性の高い方を対象に、鳥取大学医学部と連携し「認知症予防教室」を実施した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

認知症予防に関する知識・意識の啓発のため、引き続き、「認知症予防教室」を実施するほか、鳥取大学医学部との連携による新たな事業の研究も行う。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
「子育て環境整備」に関する市民の「不満足」「やや不満足」の割合【児童家庭課】	不満足 12.7% やや不満足 22.6%	—	不満足 11.5% やや不満足 18.5%	不満足 11.5% やや不満足 18.5%	不満足 6.4%以下 やや不満足 11.3%以下	C

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成17年度から平成21年度までの米子市次世代育成支援行動計画（前期計画）に基づき、次代を担う子供を健やかに育てるための環境づくりを行っている。

- 病児・病後児保育実施施設　1箇所増
- なかよし学級　1箇所増
- 次世代育成支援対策交付金63,893千円により、子育てワークショップほか各種子育て環境整備事業を実施

その他、国の施策に準じ、「子育て応援特別手当」の年度内支給開始に努めた。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成17年度から平成21年度までの米子市次世代育成支援行動計画（前期計画）を平成21年度中に見直しを行い、平成22年度から平成26年度までの米子市次世代育成支援行動計画（後期計画）を策定する。

- 平成21年度から延長保育の実施　1箇所増

平成22年度以降は、後期計画に基づき、地域における子育て支援の充実や母子の健康確保、教育環境や生活環境の整備、仕事と子育ての両立の推進等について関係機関が連携を図り推進する。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
保育所入所待機児童数【児童家庭課】	31人	36人	44人	47人	0人	D

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成20年度は年度当初から私立保育園1園で入所定員を低年齢児を中心に30名増やした。しかしながら、今年度も低年齢児を中心にそれを上回る入所希望があり、結果として昨年度より待機児童数が増加する結果となった。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

ここ数年、入所定員を年々増加させてきているが、それにあわせるかのように入所希望も増加している。既存施設の有効利用を図るとともに、幼稚園への入園状況なども勘案しながら待機児童解消の方策を検討していきたい。

なお、平成22年度から私立1園で60名の定員増を予定している。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
なかよし学級実施学級数【児童家庭課】	19箇所		20箇所	22箇所	23箇所	B

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成２０年４月より、２２箇所目として、和田小学校の空き教室を利用して和田なかよし学級の運営を開始した。

また、２３箇所目として、大篠津小学校内になかよし学級開設を計画し、６月議会に条例議案条例を上程。平成２１年９月より運営開始予定。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成２１年度は、保護者ニーズ等をふまえ、残る１校である大篠津小学校に、なかよし学級を開設する。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
障がい者が暮らしやすく、社会参加できる環境が整っていると感じる市民の割合【障がい者支援課】	19.0%	－	17.8%	17.8%	25.0%	D

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

相談支援事業、コミュニケーション支援事業、就労支援事業など障がい者が地域で安心して生活していただくための施策の充実を図るとともに、障がい者に対する理解を深めてもらうよう『米子市福祉の集い』及び『各種障がい者関係大会等への助成』を実施し、市民の啓発に努めた。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

障がい者が積極的に社会参加するためには、市民の障がい者に対する理解が不可欠であり、今後も市民に対する広報・啓発を進めていく。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
福祉ボランティア団体に登録している市民の割合【協働推進課】	2.6%	2.8%	2.7%	7.6%	5.0%	A

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

市民からのボランティアの問い合わせにボランティアセンターを紹介し、センターでは助言や情報提供など111件の相談を受けた。

ボランティアセンターへの委託によるボランティア入門講座及びリーダー養成講座を開講し、月刊情報誌の発行及びボランティア情報掲示板等による広報を実施した。

従前の福祉ボランティア活動の支援だけでなく、様々な分野でのボランティア活動に対応できる相談窓口を充実させるため、米子市福祉保健総合センター条例の一部を改正し、米子市福祉ボランティアセンターを米子市ボランティアセンターに改名した。（所管も障がい者支援課から協働推進課へ移行した）

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】
地域福祉計画・地域福祉活動計画により、地区公民館単位で地域住民による福祉活動の推進を目指すとともに、福祉、保健、医療、観光、スポーツ、防災、文化、環境、教育その他を含む総合的なボランティア活動を行う人にボランティア登録の働きかけを行う。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
国民健康保険料の徴収率（現年分）【保険年金課】	88.41%	89.31%	89.36%	86.51%	92.00%	D

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

１．取り組みの状況

（１）新規滞納発生後の迅速対応

過年度随時を除く現年度分新規滞納者は、第１期納期限４０日後の９月上旬に整理カード入力により初めて把握されるため、常習化の防止のため、収納担当職員と徴収員が連携し、電話催告、訪問徴収などの迅速対応を実施した。

（２）口座振替の勧奨

口座振替による納付は、納期内収納率の向上に効果的であることから、新規加入者に対し窓口で口座振替依頼書を手渡して勧奨すると共に、保険証更新時に合わせて国保加入世帯に口座振替勧奨のための案内文を送っている。また、広報誌「よなごの国保」４月号に、口座振替の記事掲載することにより広報した。

（３）本市の各種広報媒体による国保の納期や納付相談についての広報

「広報よなご」及び「米子市ホームページ」に国保料の納付月を表示して注意喚起すると共に、広報誌「よなごの国保」の７月号に、納期月及び納付相談等について記事掲載することにより広報した。

（４）夜間一斉電話催告

現年度分滞納者に対し、５・９・１１・１月の４回計１５日間にわたり、平日夜間電話催告を実施した。なお、１月の３日間については、管理職による夜間電話催告を実施した。

（５）資格適用の適正化（早期適正賦課）

被用者保険から国保への資格異動が円滑に行われないことによる、国保資格の遡

及適用により、遡及分保険料がまとめて賦課される事が、滞納の増加要因の一つになっているため、離職に伴う国保への速やかな加入届出のＰＲを実施した。

（６）被用者保険適用の適正化（賦課の縮減）

年金異動リストなど各種資料を基に、被用者保険に加入しながら国保資格喪失手続きをしていないと思われる者を抽出して５月と１０月の２回来課通知を送り、状況聴取のうえ手続き指導する等、適用の適正化により調定額の縮減を図ると共に、合わせて納付指導を実施した。

２．成　果

本年４月から施行された後期高齢者医療制度に伴い、納付率の高い世帯が約２５％減少したため、昨年度に比較して若干減少した。(2.85%減)

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

１．方　策

平成２０年４月から施行された後期高齢者医療制度に伴い、納付率の高い高齢者世帯が移行したため、平成２２年度の目標値の達成は非常に困難になってきたので、目標値の変更を考え合わせながら、平成２０年度方策を継続し、可能な限りさらに着手時期を早めるように努める。

新規滞納者の中で滞納履歴があるものについては、着手時期を早め、滞納カード出力後速やかに保有資料から電話番号等を把握して夜間一斉電話催告を実施する。この電話催告は年６回、１週間程度の期間で実施するが、電話番号の不明又は電話が不通の者は、徴収員に引き継ぎ、戸別訪問等に切り替え、早期の接触に努める。

また、悪質な滞納者については、世帯の状況と納付資力の調査把握に努め、状況に応じては、厳正な滞納処分の執行の見極めに努める。

また、中・若年層の国民健康保険の意義に対する理解不足により、被用者保険から国保へ、国保から被用者保険への異動届出が円滑に行われてないケースについて、各種資料を基に職権調査を視野に入れながら、電話での通知、徴収員の戸別訪問指導に努める。

２．スケジュール

早期接触（９月～１２月)、夜間一斉電話催告（９・１０・１２・１・４・５月)、厳正な滞納処分の執行（随時)、被用者保険資格取得・喪失職権調査（随時)。

３．方向性

国保料の徴収率を向上させ、国保財政の更なる健全化を図る。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
介護保険要介護者認定率【長寿社会課】	19.0%	19.2%	18.7%	19.3%	19.4%	A

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

高齢者が住み慣れた地域で安心した生活を続けられるように支援を行う総合機関として市内7ヶ所に地域包括支援センターを設置し、介護予防ケアマネジメントや包括的・継続的ケアマネジメント、総合相談支援等の実施により、高齢者が要介護となることを予防し、適切なサービスを利用できるように取り組んだ。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

地域包括支援センターと地域組織等との連携を強化し、地域ネットワークの基盤整備を推進することで、住民ニーズの的確な把握や見守り支援などの充実を図り、高齢者が地域で自立した生活が送れるような環境の整備に努めることで、老化の防止等が抑制できる。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
人権教育地域懇談会の参加者数【人権政策課】	2741人	2624人	2317人	2256人	3000人	D

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

市内27地区の人権・同和教育推進協議会に懇談会開催を委託し、市内84箇所で実施した。

米子市人権施策・人権教育基本方針に定める人権分野について、住民相互の話し合いの中から気づきが生まれ、一人ひとりがつながりあって、家庭・地域を住みよい場所にしていくよう懇談会をすすめた。

アンケートによると参加した住民のほとんどが「このような懇談会は必要である。」との回答を得ている。身近な地域での学びあいの場として有意義な懇談会であった。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

小地域懇談会を「家庭・地域を住みよい場所にしていくために、地域での人権学習そして誤解・偏見に気づく場を確保する」と位置付け、目標実現のためには対象地域をより身近な自治会にしぼり、開催場所も自治会公民館等を利用するなど地域住民が参加しやすいようにする。また、懇談会実施の際、事前準備を地域と共に周到に行い、参加者が地域の実態に合ったテーマ選定や講演会、ビデオ学習、グループ討議などの手法・プログラムを取り入れ、小地域懇談会をより身近な問題を話し合う場として、今まで参加のない方をひとりでも多く参加してもらえよう取り組むと共に、事前広報などに努める。

また、市報等で人権教育地域懇談会の内容や意義などについて広く知らせる。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
男女が平等に生活していく社会づくりがすすんできていると思う割合 【男女共同参画推進課】	49.5%		50.6%	50.6%	60%	B

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

1　男女共同参画啓発事業の実施

（1）男女共同参画週間イベント(H.20.6.23～29)

（男女共同参画パネル展示、映画上映会、しゃべって未来や）

（2）市報等での広報

（3）しゃべって未来や(3回)（講演と意見交換会）

（4）かぷりあ祭の開催（H21.3.1）

（男女共同参画推進イベントの開催、市民参加による意見交換会、利用登録団体の活動報告・発表展示）

2　男女共同参画推進計画の進行管理

（1）施策の実施状況を調査し審議会で評価

3　米子市男女共同参画に関する市民意識調査の実施（H20.9）

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

１　男女共同参画啓発事業の充実

２　米子市男女共同参画センターを利用しての情報提供、事業の実施

３　平成２１年度男女共同参画推進条例の制定

４　各担当課との連携強化

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
審議会等委員に占める女性の割合 【男女共同参画推進課・職員課	31.4%	31.8% (18.6.1現在	29.6% (19.6.1現在)	31.3% (20.4.1現在)	40.0%	C

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

・組織・委員データを各審議会等所管課から収集し、周知啓発

・チェックシートを使った職場評価の実施

・米子市女性人材バンク登録について市民への啓発

登録者数　　３４名　（うち審議会等委員へ２名推薦）

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

・米子市審議会等委員選任基準等の遵守の徹底

・米子市女性人材バンク事業の充実

・人材発掘と登録に向けた市民啓発

・登録者活用に向けた各課との連携

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
児童１人当たりの年間図書貸し出し数 【学校教育課】	４０	５１．１	５７．５	６３．２	４８	A

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

学校の図書購入費を確保するとともに、学校図書職員及び司書教諭を対象とした学校図書館教育研修事業を引き続き実施することで、学校図書館の充実を図った。

従来から学校教育活動のなかで、朝の読書の取組やブックトークを実施したり、読み聞かせボランティアをお願いするなど子どもたちの読書意欲を高めるよう努めてきたが、平成 20 年度は、初めてストーリーテリングという手法を導入するなど、図書を利用する取組の充実を図った。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

今後も引き続き、子どもたちの読書意欲を高めるため、学校教育活動のなかで、朝の読書の取り組みやブックトーク、ストーリーテリングを実施したり、読み聞かせボランティアをお願いするなど図書を利用する取組を充実させながら、目標を達成できるよう努力したい。

※ブックトーク…一定のテーマを立てて一定時間内に何冊かの本を複数の聞き手に紹介する行為。

※ストーリーテリング…朗読と異なり、物語を暗記して、子どもたちの目を見ながら語るもの。効果として、聞き手の関心を引きやすいことや記憶に残りやすいことなどが上げられる。

指　　標　　名	基準値（H17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
校内ＬＡＮ整備率【教育総務課】	54.4	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	A

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成１８年度中に、市内すべての小学校に校内ＬＡＮを整備した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成１８年度中に、市内すべての小学校に校内ＬＡＮを整備した。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
学校給食における県内産食材の使用割合【学校教育課】	44．8%	51．5%	53．6%	56．3%	50%	A

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

天候に恵まれ、特に冬場の県内産野菜等が多く入手できたことにより、献立に積極的に県内産食材を取り入れることができ、また、味噌については平成２０年度から鳥取県西部産の米と大豆で加工した味噌を使うことができるようになり、さらに使用割合を伸ばすことができた。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

献立作成の際にできるだけ旬の県内産食材を使用するようにし、季節感を出すことで県内産食材を身近なものとして感じてもらうような工夫を行っていきたい。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
生涯学習の機会の提供に満足している市民の割合【生涯学習課】	18.2%		17.6%	17.6%	20.0%	D

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

１　米子人生大学（１５回開催）

登録者数　４５９人、延べ参加人数　４，３１４人、出席率　６９．４％

登録者数は前年比１４．８％減、平均参加者数は１４．７％減となっている。

２　よなごアカデミー（５テーマ、延べ１４回開催）

登録者数　２００人、延べ参加人数　３５８人、出席率　６５．１％

３　タムタムスクール（２コース、延べ１２回開催）

登録者数　１１２人、延べ参加人数　２２９人、延べ託児数　２２０人

出席率　７９．８％

受講希望は多いが、託児数に制限があり定員制をとっている。

４　公民館社会教育講座（各館平均１５回、延べ４３２回開催）

開催回数が前年比２．４％増となっている。

１館当たり６０～８０人の受講生があり、多様な学習に取り組んでいる。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

限られた予算の中、開催回数、講座内容の維持には厳しいものがあるが、関係機関等との連携など工夫をこらし、講座内容の充実を図ることにより、生涯学習の機会の提供に係る満足度を高める。

また、開催回数を微増できた公民館社会教育講座については、その回数の維持に努める。

なお、平成19年度から「米子人生大学」「よなごアカデミー」については、受益者負担を導入しており、登録者数の減、ひいては「満足している」との回答を阻害する要因となっていることも考えられるが、その影響については、次の「アンケート調査結果」により判断したい。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
中高生が子ども会のボランティア活動に参加している人数【生涯学習課】	人 ２００	人 ２６７	人 ３１７	人 ２３７	人 ３５０	C

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

①20年度に発生した課題

ジュニアリーダーズクラブ〔中高生のボランティアグループ（以下ＪＬＣ）〕のメンバーの世代交代で高校生が減り、中学生が増えた。経験の浅いメンバーを子ども会へ派遣した際、子ども会側に満足してもらえないことがあった。また、中学校の部活動等のために活動できないメンバーが多く、これらの原因により派遣依頼と参加者が減少した。

②活動支援

従来は、ＪＬＣの自主的な運営を尊重し、おもにＪＬＣの代表者が各子ども会からの派遣依頼を受け付けていたが、平成20年11月以降は、派遣依頼の受付から派遣者の募集、日程調整までを米子市子ども会連合会事務局（生涯学習課）で一元化して担い、ボランティア派遣の連絡調整を円滑に行えるようにした。また、ＪＬＣ定例会（毎月１回実施）に生涯学習課職員が参加し、助言、指導を行うとともに、メンバーが資質を向上し、活躍の場を広げられるよう研修を実施したり、他団体が実施する研修への参加を呼びかけた。

③成果

平成20年11月以降、活動回数、派遣人数が着実に増加している。また、研修の成果が現れて自信をもって活動できるようになったメンバーが増えた。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】
Ｈ２１～２２
　毎年４月に市内の全子ども会の役員を対象に実施する研修会で、ＪＬＣのＰＲをして、ボランティア活動する場の確保に努めた。

指　　標　　名	基準値（Ｈ17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（Ｈ22）	目標達成度
米子市に住所を有する少年の万引き、自転車盗、置き引きなどの初発型非行者数【生涯学習課】	人 １７９	人 １４５	人 １１４	人 １２５	人 １２０	Ｂ

【２０年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】
・少年育成センターで非行防止を呼びかけるチラシを作成し、小学、中学及び高校入学生並びに中学卒業生の全員に配布した。
・少年指導委員を委嘱し、中学校区ごとに活動費補助金を交付した。地域の大人全体で青少年を見守り育てる雰囲気の醸成に効果があった。
・教員と合同で補導を実施し駅前及び大型店舗を巡回し、児童・生徒に声をかけた。
・青少年が立ち寄る店舗や、立ち寄るには好ましくない施設の状況調査を実施し、補導の参考にした。
・地域住民を対象とした広報紙に青少年育成啓発記事を掲載した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】Ｈ２１～Ｈ２２
①青少年の非行防止
　補導活動に重点を置き、飲酒・喫煙や深夜はいかい等の不良行為を見かけたら非行に走る前の段階で、とどまらせるように努める。
②青少年に有害な地域環境の浄化
　不良行為の温床となるたまり場になりやすい施設等を把握するため、少年指導委員の協力を得て調査し、県や警察と連携して施設等の改善に向けて働きかける。
③広報・啓発活動の推進
　初発型非行の減少傾向が鈍っているため、今後も引続き効果的かつ積極的に広報・啓発を行い、地域全体で子どもを見守り育てる雰囲気の醸成を更に図る必要がある。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
芸術文化鑑賞機会の提供に満足している市民の割合【文化課】	16.8%	－	16.3%	16.3%	20.0%	D

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

美術館事業：継続事業として、市展、県展、常設展を普及事業として、美術館に親しんでもらうためのミュージアムスクールを全６回開催した。また、葉祥明展、地元の革作家本池秀夫展を開催した。

ホール事業：米子市音楽祭、童謡講座、ユースオーケストラ演奏会、なつかしの映画・子ども映画の上映会、弦楽の響きコンサート、ロビーコンサート等を開催した。

交流事業：出雲市・津山市との連携により、出雲ドーム2000人の吹奏楽に中学校の吹奏楽部を派遣、津山市の音楽祭に文化団体を派遣、米子市音楽祭に、出雲市・津山市の文化団体を招聘し交流演奏をした。また、三市の俳句愛好者による吟行を、津山市で実施した。

学校公演事業：小･中・養護学校で、オーケストラ・寄席・児童劇公演を５公演実施し、本物（生）の鑑賞機会の提供を行った。

秋の文化祭：文化施設等で、６１団体の参加を得て、６９事業を実施した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

引続き美術館・公会堂・文化ホール・淀江文化センターにおいて継続事業、企画事業を実施します。事業実施にあたっては、今後ともアンケート、聴き取り調査などを実施し、市民に支持され、親しまれる事業展開を図り、集客に努めます。また、新聞社等との共催開催に努め広報の充実を図ります。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
山陰歴史館・福市考古資料館・淀江歴史民俗資料館の年間入館者数【文化課】	9,699人	13,155人	12,176人	14,265人	30,000人	C

【２０年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

３館の管理運営を一体化した指定管理制度の導入３年目。入館者数は前年度減少から、２千人強盛り返した。新たな事業のうち３館の展示品の紹介と史跡探訪を取り入れた３本の企画をほぼ月一回開催して行動する歴史館を強くアピールした。また、特別企画展の「潜水艦長山田薫の戦地記録」は、市民・マスコミの大きな反響を呼び単発の企画としては、過去最高の来館者を集めた。加えて、新聞紙面に執筆連載した「いにしえを訪ねて」が読者に好評で、集客にも結びついた。

なお、各館常設展、上記特別展のほか、以下の事業を実施した。

〇山陰歴史館（「企画展米子いまむかし明治・大正・昭和」「特別展・素鳳展」「企画展森脇信夫の世界」「歴史館コンサート」「講演会潜水艦乗りの生活」「歴史探訪中世城館めぐり」「民話の部屋」「郷土の歴史教室」「体験学習暮らしの道具探検隊」「ぐるっと３館めぐり」「「古文書解読勉強会」）

〇福市考古資料館（「企画展道具でたどる食の歴史」「学術講演会大山寺の歴史」「体験学習勾玉・石包丁づくり」「考古学教室触って学ぶ考古学」「考古学講座」「共催講座むきばんだやよい塾夜間部」）

〇淀江歴史民俗資料館（「企画展「道具でたどる食の歴史」「連続講座街道からたどる歴史」「企画展実りの神々を求めて」「企画展淀江写真風土記－明治・大正・昭和の記録」「出前講座」）

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

３年次の達成率 47.55 パーセントであり、昨年度と比べ来館者の伸び率は若干回復したが、このままでは平成 22 年度の目標達成がかなり困難な状況である。

館のホームページを立ち上げ、３館共通リーフレットの作成、マスコミを活用しての歴史館資料情報の発信、歴史館コンサートなど PR の充実に取組んできたが、効果は徐々にしか表われていない。目標実現のため、より一層の PR 活動を行なうとともに、３館固有の特徴を維持させつつ、長期的展望をもったシリーズ的企画や地域にアピールする企画に取り組みながら、出前講座、史跡探訪などの館外活動に一層取組む計画である。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
「伯耆古代の丘整備事業」の進捗率 【文化課】	9.2%	21.8%	28.1%	36.4%	77.0%	C

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

史跡上淀廃寺跡の環境整備及び追加指定地の買上げを実施した。

◆環境整備

中心伽藍南半（中門・回廊・築地等）を対象とした地形復元工・遺構表示工・園路工・植栽工・設備工、解説板の制作設置、中心伽藍東辺環境整備の実施設計と当該地区の地形測量、ガイダンス施設の実施設計を実施した。

◆買上げ

一連の追加指定地買上げの最終年次として、寺域の東辺を対象に5筆2,320.59㎡の公有化を実施した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

◆史跡上淀廃寺跡環境整備

H21年度：東辺環境整備、ガイダンス施設建設、解説広場・ガイダンス展示設計

H22年度：地形模型製作設置、ガイダンス施設建設

H23年度：解説広場環境整備、トイレ建設、パンフレット・事業報告書刊行

◆史跡向山古墳群環境整備　　H24～25年度

◆史跡上淀廃寺跡買上げ　　H18～20年度

◆その他　　管理活用計画の検討

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
市民が週１回以上、スポーツ活動を行っている割合 【体育課】	21.4%		28.7%	28.7%	30.0%	B

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

主な施策

・ 市民体育祭、各種スポーツ教室・講習会、各種スポーツ大会を開催した。

・ 平成１８年度に開催した「全国スポーツ・レクリエーション大会」を契機として、平成１９年度に引き続き「インディアカ」、「ドッヂビー」の講習会、大会を開催し、普及振興に努めている。

・ 市民の健康・体力づくり推進活動として、昭和４１年から毎月１回開催している「体力づくり歩け歩け大会」が、５００回記念大会を機に市民の間にかなり定着してきた。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成１８年度に開催された、全国スポ・レク祭による生涯スポーツの気運を一過性のイベントとして終わらせること無く、引き続き大会、講習会を開催し、更なる意識の高揚と活動の推進を図る。

また、県民スポ・レク祭を初めとして、従来から行っている市主催の各種大会、教室、講習会等を通じて、市民のスポーツ活動への意識啓発を推進していく。

平成２１年３月に鳥取県の策定した「鳥取県スポーツ振興計画」にのっとり、いつでも、どこでも、だれでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指していきます。

指　　標　　名	基準値（H17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
「白浜住宅建て替え事業」の進捗率 【建築住宅課】	0%	0%	44%	100%	100%	A

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

既存建物解体撤去（２期）工事　平成２０年６月完了

建替（２期）工事　１８戸　工期平成２０年６月から平成２１年３月で完了

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
「五千石住宅建て替え事業」の進捗率【建築住宅課】	0%	0%	0%	0%	28%	C

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成２１年度　基本設計、実施設計、地質調査

平成２２年度　建替（１期）工事　３８戸着手

（平成１７年当初計画）

平成２０年度　基本設計、実施設計、地質調査

平成２１年度　建替（１期）工事　３８戸着手

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
市民１人当たりの公園面積【土木課】	10.39	10.39	10.39	10.75	10.43	A

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

既存公園（東山公園・日野川緑地等）の追加供用により、20年度実績値が10.75㎡と目標値は達成しているが、緑の基本計画で計画している街区公園の整備は進んでいない。

20年度も街区公園の整備を計画したが、予算確保が困難で進捗状況は停滞している。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

目標値は達成しているが、市民が安心して快適に過ごせる都市空間を形成するため、さらなる整備が必要で、特に市民の日常生活に身近な街区公園の整備を図る。

指　　標　　名	基準値（Ｈ17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（Ｈ22）	目標達成度
準用河川の改修済み延長（準用河川区間延長 L=17.41ｋｍ）【土木課】	ｋｍ 8.03	ｋｍ 8.08	ｋｍ 8.13	ｋｍ 8.17	ｋｍ 8.28	Ｂ

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

西福原、両三柳地内で準用河川堀川改修事業をおこない、護岸工７３ｍの河川改修に併せ、市道橋（公園南橋）の架け替えをおこない、施工個所周辺の河川環境の向上に寄与した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

概ね順調に進捗しており、目標を達成できる見通しである。

平成21年度は引続き準用河川堀川改修事業、護岸工130ｍ、橋梁調査・設計（堀川4号橋）をおこなう。

指　　標　　名	基準値（Ｈ17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（Ｈ22）	目標達成度
汚水処理人口普及率【下水道整備課】	68.0%	73.9%	76.0%	82.4%	85.1%	Ｂ

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

公共下水道を計画的に整備を進め、また合併処理浄化槽の設置における補助も予定どおり、順調に進み普及率は向上している。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

現状の予算規模で計画的に整備促進していく。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
水洗化率【下水道整備課】	82.8%	82.8%	85.4%	83.4%	88.1%	B

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

工事説明会、環境フェア、下水道の日等を通して市民に公衆衛生や住環境向上のためにも水洗化が必要である事を説明している。

※平成20年度の水洗化率が前年度を下回ったのは、伯仙地区農業集落排水事業の完成により供用開始区域が広がったことによる。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

水洗便所への改造を推進するため、水洗化の啓発活動に積極的に取り組むと共に普及促進員等による戸別訪問の回数を増やしていく。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
米子市の景観を魅力的と感じる市民の割合【都市計画課】	40.9%		44.8%	44.8%	43.0%	A

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

【主な施策】

１　良好な景観の創出

・景観法に基づく景観計画の策定作業

・景観形成重点地区の整備

旧加茂川・寺町周辺地区街なみ環境整備事業　平成２０年度事業費４，８１５千円

２　景観形成活動の推進

・都市景観写真展の開催等　応募作品数１００点

・緑化活動支援事業　支援団体数１５件

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

・平成２１年度中に、うるおいのある、緑豊かで文化の薫る景観の創出を図るため、景観計画を策定し施行します。

・景観形成重点地区である旧加茂川・寺町周辺地域における歴史的な街並みの整備を図ります。

・都市景観写真展や緑化活動支援事業等を通じて景観形成活動の推進を図ります。

指　　標　　名	基準値（H17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
平成 12 年度を基準としたごみの削減率 【環境政策課】	5%	-4%	16%	18%	8%	A

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成 19 年 4 月から実施している家庭ごみの有料化（可燃ごみ・不燃ごみ（不燃性粗大ごみを含む））により、引き続き家庭ごみの減量化を図った。また、同時に事業所ごみの収集を廃止しており、それにより事業所ごみの減量化も図っている。

その結果､平成 20 年度の実績値は平成 22 年度の目標数値である 8%を上回る 18%となり、今のところ目標を達成している。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成 22 年度のごみの削減率は平成 12 年度を基準として 16%と推計でき、目標の達成を見込んでいるが、次の取り組みにより、引き続きごみの減量化を推進することとする。

・自治会、リサイクル推進員等との連携

・要望に応じた地区説明会の開催

・ノーレジ袋推進協議会への参加（マイバッグ運動の推進、レジ袋の有料化の検討）

・米子市ホームページ・広報よなごへの情報掲載

・よなごみ通信の発行

・家庭用生ごみ処理機等購入費補助事業の実施

・生ごみ堆肥化モデル事業の実施

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
ごみのリサイクル率【環境政策課】	15.9%	16.6%	17.9%	16.5%	21.0%以上	C

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成19年4月から実施している家庭ごみの有料化（可燃ごみ・不燃ごみ（不燃性粗大ごみを含む））により引き続き資源ごみの分別の徹底を図り、リサイクル率の向上を目指したが、平成20年度のリサイクル率は16.5%と前年を1.4%下回った。

これは、古紙類（リサイクル率 100%）の排出量の減少が大きな要因であり、景気の悪化による雑誌類の購入減・民間のリサイクル店への持ち込み、容器包装の簡素化が主な原因であると推察している。

また、旧米子市清掃工場を解体し、跡地の一部を利用し、溶融スラグを建設資材として有効利用するための「ストックヤード」を建設し、次年度以降、溶融スラグの更なる再生利用を図り、リサイクル率の向上を目指すこととした。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

米子市クリーンセンターにおいて発生する溶融スラグの更なる再生利用を図るとともに、次の取組みを実施することにより平成22年度の目標の達成を目指す。

・資源ごみ回収運動推進団体に対する奨励金交付事業の実施
・自治会、リサイクル推進員等と連携し指導・啓発を徹底
・家電リサイクル法の対象家電及び家庭系使用済みパソコンなどのリサイクル促進のための情報提供

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
消防団員数【防災安全課】	４９８人	５１５人	５０９人	５０９人	５３０人	C

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

・　自治会への働きかけや地域のイベントへの消防団としての参加等を通じて分団ごとに様々な取組をし、平成２０年度中は、３月１日時点で、目標の５３０人に７人足りない５２３人まで団員が増加した。

・　発足３年目の女性分団において、１９人の団員中１３人が応急手当資格最高位の指導員資格を取得し、女性分団独自の心配蘇生法講習を一層精力的に行った。自主防災組織や自治会等からの要請も増え、従来からの幼稚園・保育園に加え、初の試みとして「なかよし学級」への防火教室も実施し、好評を得た。これにより、市民にも女性分団、ひいては米子市消防団に対する認知度・評価はかなり高まったものといえる。

・　平成２３年度までに設置が義務付けられている住宅用火災警報器の普及啓発を積極的に行い、地域防災の要として住民の不安払拭に貢献した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

・　報道機関に消防団事業の情報提供を行う。

・　団員募集ポスターの掲示、消防団ＰＲチラシの配布を行う。

・　テレビ出演等による消防団活動のＰＲを行う。

・　防火・消化活動だけでなく、地域における応急手当講習の開催等を通じて、住民から信頼される、魅力ある消防団を目指す。

指　　標　　名	基準値（H17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
自主防災組織の結成率【防災安全課】	27%	29%	31%	32%	37%	B

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

米子市連合自治会長会で結成の呼びかけや「広報よなご」にて自主防災会結成の呼びかけを行った。

新規結成１件（新規結成１団体、継続認定（旧淀江町）２団体）があった。

育成事業の案内冊子を全自主防災組織に送付、また、防災資機材購入事業２３件、訓練事業１６件に補助を行い、ソフト、ハード面の充実を図った。

（財）自治総合センターのコミュニティ事業に推薦した２団体が補助金交付を受け、防災資機材を購入・装備した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

「広報よなご」に結成を呼びかける広報を掲載する。

自治連合会、自治会の総会等で結成に関する説明を行う。

既存組織の活動を活発化することにより、市民の自主防災組織への関心を高める。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
公共建築物(昭和５６年以前に建築）の耐震調査の割合【防災安全課】	70%	73%	74%	79%	86%	B

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

淀江中学校、宇田川保育園、淀江保育園の耐震調査を行った。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成２１年度は、７ポイントの耐震調査割合増を行う。

また、平成２２年度は、７ポイントの増を目標とします。

（参考）

全体数：６６件

基準値：４６件

実績値：５２件

平成２１年度調査予定施設（※は、過去一部調査を行っている施設）

就将公民館、成実公民館、淀江公民館、大和公民館、公会堂

※就将小学校、※あがた保育園

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
交通事故発生件数【防災安全課】	1,043件	1,013件	９１７件	７４２件	９８５件	A

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成２０年度の本市の交通事情に応じた効果的な施策を取り入れた「米子市セーフティ作戦」を策定し、各関係機関や団体をはじめ幅広い市民の力を結集して協力に推進することにより、交通事故の減少、さらに安全で快適な交通社会を実現することを目的として運動を展開した。

具体的には、春、夏、秋、年末の各交通安全運動期間中、各関係機関や団体により、(1)子どもと高齢者の交通事故防止、(2)飲酒運転の根絶、(3)高齢者と若者の安全運転の推進、(4)全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底、(5)自転車の安全利用の推進、(6)交差点での交通事故防止、(7)“みんなが着けよう！反射材キャンペーン”の推進、(8)運転中における携帯電話の使用禁止の徹底、(9)交通安全にみんなで参加、実践する活動の推進　の重点項目を設け、ドライバーや歩行者等に対し、街頭広報や啓発物品の配布等啓発活動を行った。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成２０年度は、交通事故件数の目標値を達成したが、これを継続的なものとするためには地道な交通安全啓発活動を展開していく必要があり、各期に実施する交通安全運動と連動し、広報・啓発活動を今後も継続していく。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
自治会に加入している割合【協働推進課】	73.3%	71.8%	70.5%	69.8%	74.1%	D

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

各自治会が取り組む加入促進活動への支援を目的に、米子市自治連合会（協働推進課が事務局所管）において、自治会運営便利帳（自治会運営・加入促進マニュアル）を作成し、全自治会長に配布した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

米子市自治連合会（協働推進課が事務局）では、便利帳の内容充実を通じて各自治会が行う加入促進活動への支援を行うことを今年度の具体的な取組みとしている。

本市としても、引き続き、先進地の情報収集等を行い、同会と連携・協力し、自治会の加入率向上を図ることとしたい。

指　　標　　名	基準値 （H17）	18年度 実績値	19年度 実績値	20年度 実績値	目標値 （H22）	目標 達成度
生活排水対策重点地域「加茂川・旧加茂川流域」、「大沢川流域」における施設整備によるＢＯＤ汚濁負荷量 【環境政策課】	「加茂川・旧加茂川流域」 466.9 (kg/日) 「大沢川流域」 560.0 (kg/日)		461.3 (kg/日) 523.1 (kg/日)	453.5 (kg/日) 504.1 (kg/日)	439.6 (kg/日) 532.1 (kg/日)	B

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

公共下水道が「加茂川・旧加茂川流域」の長砂町、陽田町や、「大沢川流域」の東福原、西福原地内で整備が進んだ。また、普及活動により、公共下水道への接続も増加した。

実績において流域による差はあるが、ＢＯＤ汚濁負荷量削減目標は、合計で達成率が、90.7%となっている、公共下水道の水洗化人口も「加茂川・旧加茂川流域」では16,000人を越え「大沢川流域」でも4,800人を越えている。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

公共下水道整備の推進、接続および水洗化の促進と生活排水対策講習会の開催、ろ過袋斡旋など生活排水対策の実施

指　　標　　名	基準値 （H17）	18年度 実績値	19年度 実績値	20年度 実績値	目標値 （H22）	目標 達成度
市行造林地内で間伐･枝打ち等の作業を実施する面積 【農林課】	32.53ha	33.80ha	46.67ha	23.48ha	35.00ha	C

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

日南町上萩山の市行造林において、間伐１１．７４ｈａ、枝打ち１１．７４ｈａを実施した。

これは１９年度実績に比較すると、間伐で１８．３６ｈａの減、枝打ちで６．２７ｈａの増となっている。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】
　補助金の活用等を検討しながら、適正な造林事業に努め、目標値の年間３５ｈａ保育事業量の確保に努める。

指　　標　　名	基準値（H17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
担い手の農地利用集積面積が地域の農用地に占める面積の割合 【農林課】	6.1%	7.7%	13.2%	13.6%	16.7%	B

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】
認定農業者の育成、法人化への取組みを行い、認定農業者の数８８経営体、集落営農２３団体及び他産業からの参入企業 4 社へ増加。
それにより担い手による農用地利用集積面積も４０３ｈａから４１５．４ｈａへ増加した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】
　今後も引続き、集落説明会及び個別面談の実施、他産業からの企業参入の推進等による「担い手の数」を増やす取組、利用権設定等促進事業による農用地利用集積の取組及び担い手規模拡大促進事業、認定就農者農地賃借料助成事業等による認定農業者・法人等の担い手への農地の流動化・集約化への取組等により、目標の達成を目指す。

指　　標　　名	基準値（H17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
遊休農地解消面積 【農林課】		2ha	8ha	18ha	23ha	B

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

耕作放棄地全筆調査を実施し、市内遊休農地の所在と状況を確認した。

国の耕作放棄地再生利用推進事業を実施するため、米子地域耕作放棄地対策協議会を設立した。

米子市遊休農地解消推進事業で約 2.0ｈａ、米子市担い手規模拡大促進事業で約 0.2ｈａ、担い手アクションサポート事業で約 6.9ｈａ、耕作放棄地再生利用推進事業で約 0.6ｈａ、合計で約 9.7ｈａを解消した。

また、弓浜６地区の遊休農地対策協議会に対し会議費等を補助し、遊休農地解消に向けた検討を実施するとともに、西部地区遊休農地対策協議会、米子市遊休農地対策協議会等において遊休農地解消に向けて検討を実施した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

新規参入を目指す企業及び規模拡大を目指す農業者に対し、遊休農地の利用調整（利用権設定等促進事業）を積極的に実施する。

また、米子市遊休農地解消推進事業（市内の遊休農地を整備した者に対し補助金を交付する事業及び弓浜６地区の各遊休農地対策協議会に対し会議費等を交付する事業）の要件を緩和し、遊休農地の解消促進を図る。

遊休農地の有効活用の方策を米子市遊休農地対策協議会、米子地域耕作放棄地対策協議会、西部地区遊休農地対策協議会等において検討し、遊休農地解消事業を実施する。

指　　標　　名	基準値（H17）	H18 年度実績値	H19 年度実績値	H20 年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
担い手の数【農林課】	38 経営体	46 経営体	86 経営体	88 経営体	101 経営体	B

【平成 20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

86 経営体　⇒　88 経営体

米子市担い手育成総合支援協議会の構成機関・団体等が連携を密にし、同じ認識のもとで認定農業者制度のメリット等の周知、その他認定農業者の育成・確保に向けた取組を推進した結果、目標には届かなかったが、2 経営体増加した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

米子市担い手育成総合支援協議会の構成機関・団体等で認定農業者候補のリストアップ（地域水田農業ビジョンの活用等）をし、その候補者リストに基づき、集落説明会及び個別面談により認定農業者へ誘導していく。

その取り組みの結果、今年度、88 経営体となったが、既存の認定農業者の更新も増えており、認定を継続してもらうことと併せ、他産業からの企業参入を推進するなどし、新たな担い手を育成する。

指　　標　　名	基準値（H17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
農産物を購入する際に地元産を優先する市民の割合【農林課】	65.0%	－	74.6%	74.6%	70.0%	A

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

米子市地産地消推進計画に掲げる下記の取組みを実施した。

・学校給食における地元産農産物の利用の促進を図るため、学校給食課、学校栄養職員、学校給食センター、学校給食会、鳥取西部農協、米子市農林課、県民局大山中海振興課、農林局農林業振興課による検討会を開催し、生産、流通、納入、調理の過程における課題等について引続き検討することとした。

・農林水産祭等の地産地消に関連するイベントの開催について助成した。

・市民農園を通じた消費者に対する農業への理解の促進を図った。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成２０年度まちづくりに関する市民アンケートの結果、平成２２年度の目標値を達成しているが、引続き、米子市地産地消推進計画に掲げる学校給食での地元農産物の利用促進、地産地消に関する情報の提供、農林水産祭等の地産地消に関連するイベントの開催支援、市民農園を通じた消費者に対する農業への理解の促進等に努めると共に、新たに、平成２１年度から地元農産物を販売する直販所等の運営等に要する経費を支援し、地産地消を促進する。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
美保湾沿岸に設置した魚礁の設置個所数 【水産振興室】	19ヶ所	19ヶ所	20ヶ所	20ヶ所	21ヶ所	B

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

この魚礁設置事業は隔年で実施する計画で進めており、本年度は実施年度でなかった。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成２１年度に最終年度の事業を実施し、２２年度には当初計画の２１ヶ所になる予定である。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
皆生漁港の北防波堤の延長 【水産振興室】	151m	181m	181m	211m	211m	A

指　標　の　説　明	皆生漁港の北防波堤を計画的に整備しており、この事業の進行状況を表します。 皆生漁港の安全性を向上させるため、北防波堤を６０ｍ延長することを目標とします

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成２０年度はケーソンの上部工並びに消波ブロック設置工事を実施し、目標値を達成した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
日野川における天然稚鮎の遡上数 【水産振興室】	5．45万尾	40万尾	60万尾	72万尾	100万尾	B

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

日野川水系漁業協同組合が産卵場の造成及び魚道の整備等を実施した結果、天然稚鮎の遡上数が増加した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

日野川水系漁業協同組合は、引き続き産卵場の造成及び魚道の整備等を実施する予定であり、市として淡水魚育成放流事業を支援していきたい。

指　　標　　名	基準値（Ｈ17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（Ｈ22）	目標達成度
中心市街地空き店舗への出店数 【商工課】	２０	２３	４０	４４	４５	Ｂ

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

商店街の空き店舗への新規出店を支援する「にぎわいのある商店街づくり事業」補助金について、広報よなご、ホームページ、鳥取県発行の冊子「商工施策の概要」などを活用し、周知に努めた。

様々な事業内容の４店が商店街の空き店舗に新規出店を行った。

そのうち、「にぎわいのある商店街づくり事業」補助金制度を利用して開店した店が３店あった。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

引き続き、補助金制度の周知に努める。

商店街振興組合、米子商工会議所など関係団体と連携し、出店を希望する者に対して、補助金の周知や助言を行い、出店しやすい環境整備に努める。

指　　標　　名	基準値（Ｈ17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（Ｈ22）	目標達成度
米子流通業務団地への進出率 【崎津・流通団地営業課】	43.5%	61.8%	77.0%	77.0%	100.0%	Ｃ

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

米子流通業務団地への施設立地に伴う固定資産税の課税免除制度、進出企業の紹介者に対する報奨金制度を創設し、企業立地促進に取り組んだ。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

都市計画の変更を検討する。流通業務団地の規制を緩和し、流通業務地区とすることで、進出できる業種の拡大を図り、さらなる企業立地促進に努める。

指　　標　　名	基準値（H17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
工業団地内への立地企業数【商工課】	144 件	145 件	145 件	145 件	150 件	C

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

- 米子港・旗ヶ崎工業団地では、㈱米子とうふが廃業した。
- 和田浜工業団地には、マルコウ運輸の物流センターが進出した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

- インフラ整備がある程度充実し、企業立地率の高い米子港・旗ヶ崎工業団地、夜見富益工業団地については，空地情報や空工場情報を適宜把握し、その情報発信に努める。
- 基盤整備が不十分な和田浜工業団地については、強い地元要望のある排水路の整備を中心に年次的なインフラ整備が必要である。

指　　標　　名	基準値（H17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
地元企業の産学官連携事業数【商工課】	２	８	１２	１５	１２	A

【２０年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成２０年度新規産学官連携事業

○（財）鳥取県産業振興機構西部支部が関わった産学官連携事業

■廃瓦リサイクル検討会

鳥大・美保テクノス㈱・鳥取県生活環境部・産業振興機構西部支部

■廃鋳物砂リサイクル検討会

米子製鋼㈱・㈱米子鉄工所・鳥取県産業技術センター・鳥取県衛生環境研究所

鳥取県生活環境部・産業振興機構西部支部

■屋上緑化基盤材の開発

㈱エコマ商事・鳥大・産業振興機構西部支部

○都市エリア産学官連携促進事業

２０年度で終了。平成２１年２月に米子・境港エリア成果発表会を開催。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

産学官連携事業については、年々増加しつつあるが、今後も鳥取県、鳥取県産業振興機構、鳥取県産業技術センター、鳥取大学、米子高専等と連携し、事業を増加させるよう側面的な支援を継続する。

(1)都市エリア産学官連携事業の成果である染色体工学技術について、第２段階としてその事業化に向けた取組みである「とっとりバイオフロンティア」（鳥取大学内へのインキュベーションセンターの設置）の推進に協力し、関連産業の集積を促進する。

(2)鳥取県産業振興機構に派遣した職員との連携を図り、産学官連携事業数の拡大を図る。

(3)鳥取大学産学・地域連携推進室西部連携会議に参加し、情報交換や意見交換を深めることにより、産学金官の連携を強化する。

(4)平成１９年度に、中小企業の新技術、新製品の開発を促進し、その販路開拓を支援する補助制度を創設し、産学官共同研究も補助対象としているが、２１年度は緊急経済対策の一環として産学官連携の枠を新設し、補助採択件数の拡充を図る。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
企業誘致件数【商工課】	１２	１２	１５	１５	１７	C

【２０年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

米子市大阪事務所、鳥取県、金融機関等からの企業立地情報により、工場等の立地を検討している企業を訪問する等、企業誘致の働きかけを行ったが、新たな企業誘致はできなかった。

平成２０年６月に「米子市企業立地促進のための固定資産税の課税免除に関する条例」を制定し、企業誘致促進のための支援制度の整備を図った。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

〇企業訪問や関係機関との連携等、企業誘致活動を強化するとともに、企業誘致支援策の拡充を図り、目標値の達成を図る。

・企業立地に関する企業情報の収集に努め、企業訪問等の強化により、企業誘致の実現を図る。

・県、商工団体、工業団地組合等との企業誘致に関する連携を強化し、企業誘致の実現を図る。

・企業誘致に有利な低利率融資、課税の優遇措置、法規制緩和等の支援を受けることができる「企業立地促進法」の適用について周知し、企業誘致の実現を図る。

・補助制度、融資制度等、企業誘致に係る企業への支援制度の拡充及び積極的なＰＲを図る。

・電機、電子デバイス、精密機械や半導体産業など、高付加価値産業が立地できる内陸型工業適地の調査を実施し、企業に立地を提案する基礎資料を得る。

・市内工業団地等、市内の空地、空工場等の情報を収集し、その情報発信に努める。

・米子流通業務団地、崎津アミューズメント施設用地への県外企業の進出を図る。

・県外の商工団体、産業団体の産業視察を誘致し、本市の地場産業や工業団地、流通業務団地のＰＲを図る。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
米子・皆生温泉周辺の観光客入込み客数【観光課】	万人 127.7	万人 138.3	万人 130.8	万人 120.7	万人 150.0	D

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

県境を越えた連携で観光振興を図るため、新たに「山陰文化観光圏協議会」を組織し、二次交通マップ、共同周遊マップ作成など１６事業を開始するとともに大山・中海圏域では、ポータルサイトの運営、遊覧船の運行等連携事業を実施した。また、エコツアーブックの作成やホームページによる情報発信をするとともに皆生シーカヤックなどのツアープログラム案内を実施した。

皆生温泉の活性化事業として「皆生温泉にぎわい創出事業」実施し、「観光協会の助成事業」では、各種誘致活動、共同宣伝、各種イベントを開催した。

成果

９月以降の世界的な不況による観光業界全体が落ち込んだ影響もあり、平成２０年米子・皆生温泉周辺の観光客入込み客数（平成２０年１月～１２月実績）は、１，２０７千人と前年比７．７２％の減少であった。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

景気の落ち込みや新型インフルエンザの影響でかなりの打撃も予想されるが、皆生の２ホテルの開業やＥＴＣ効果も取り込めるよう、圏域のポータルサイトの運営、周遊マップ、二次交通マップの作成、周遊バスの実証運行等の観光圏整備事業を推進し、皆生温泉、米子駅前を広域観光圏の滞在促進地区として、滞在型観光を進める。そのために、大山、皆生の自然を利用したエコツーリズムの推進、にぎわい創出事業を中心に皆生温泉の活性化を図るとともに、米子市観光協会の各種事業の助成を行い、エージェントへのプロモーション、着地型メニューの開発支援等を行う。

特に、国の緊急雇用制度を活用し、境港市、蒜山に観光案内所を増設する。観光協会、皆生温泉旅館組合に人材を雇用し、ヘルスツーリズムの開発、プロモーション活動の充実を図るとともに、山陰文化観光圏、大山パークウェイを軸とした広域観光の推進に取り組む。また、米子がいな祭等イベントを実施し、交流人口の増大を図るとともに、山陰国際観光協議会において、米子ソウル便の利用促進等を図りながら外国人の誘客に努める。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
皆生温泉宿泊者数（入湯税対象客数）【観光課】	万人 ４７．８	万人 ４４．７	万人 ４４．７	万人 ４３．６	万人 ５０．０	C

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

皆生温泉にぎわい創出事業や観光協会助成事業により重点的に皆生温泉の宣伝ＰＲ、イベント開催をするとともに、『大山・中海・隠岐エコツーリズム協議会』皆生ツアーデスクを設置して、ツアーブックの配付やホームページによる情報発信を推進した。

また、大山・中海・宍道湖圏域を中心とした「山陰文化観光圏」の認定を受け、皆生温泉は滞在促進地区に指定され、新たな広域観光連携を開始した。

成果

施設の廃業による全体のキャパシティの減少、９月以降の世界的な不況による観光業界全体が落ち込んでいる影響を受け、年末に振るわなかったことから、平成２０年度皆生温泉宿泊者数は、

４３５，４７４人（対前年９７．４０％）で、非常に厳しい結果であった。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

Ｈ２１は、湯快リゾートがオープンし、皆生ホテルも新規開業が予定されており、期待するところであるが、他方、景気の落ち込みや新型インフルエンザの影響で打撃も予想される。

目標の達成を目指して、皆生温泉にぎわい創出事業の支援を重点的に行うとともに、緊急雇用対策事業を活用して、「皆生温泉旅行商品販路開拓事業」「皆生温泉ヘルスツーリズム開発事業」「皆生温泉街並み環境整備事業」「エコツアー市場調査事業」を新たに開始する。

加えて、皆生海浜公園に足湯を設置する等市民の利用や観光客の増加に向けた公園整備を行ない、９月には日本で初の「皆生・大山シートゥサミット」の開催を支援する。

また、広域観光圏の推進を支援し、皆生温泉を観光圏の滞在促進地区として滞在型観光の推進を図るため圏域のポータルサイトの運営、周遊マップ、二次交通マップの作成、周遊バスの実証運行等の整備事業を推進するとともに「大山・蒜山パークウェイ構想」を推進するため、地域総合整備財団の「ｅ―地域資源活用助成事業」を活用する。

さらに、観光協会の各種事業の助成を行い、エージェントへのプロモーション、着地型メニューの開発支援等を行う。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
米子市の地籍調査進捗率【農林課】	33%	33.2%	33.8%	33.8%	37%	C

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

20年度は富益の一部、稲吉の一部の認証作業を行った。

富益地区については、平成18年度に事業計画の見直しを行い、平成20年度から、3ヶ年は、調査を行わず、認証作業に専念し、平成23年度から調査を再開する予定。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成21年度は、富益の一部について認証・登記作業をしていき、稲吉の一部は調査をすすめていく。富益地区については、事業計画の見直しに伴い、平成20年度～22年度までは認証作業、平成23年度から調査再開と認証作業を実施して平成30年度に目標値に達成する予定である。地籍調査は、一筆の土地を明確化することにより、適正な課税評価や、用地等を伴う公共事業の効率的な促進にも繋がる事業であり、必要性を再認識し、米子市全地域を早期完了させるための体制作りが必要と考える。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
幹線市道の整備延長（実延長L=141,922m 改良済L=125,105m）【土木課】	125,105m	125,563m	125,714m	125,784m	126,968m	D

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成20年度は内浜中央線 L= 70mの施工完了により計画的に幹線市道の整備を行った。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

平成 21 年度以降も計画的に皆生温泉環状線を整備し、安全で快適な市民生活の基盤となる幹線道路や生活道路の整備を図り、総合的な交通体系の整備に努める。

平成Ｈ21 年度事業内容

測量設計委託　　Ｌ＝１２０ｍ

用地買収補償　　Ａ＝２２０㎡

指　　標　　名	基準値（Ｈ17）	18 年度実績値	19 年度実績値	20 年度実績値	目標値（Ｈ22）	目標達成度
米子空港搭乗者数【総合政策課】	万人 47.8	万人 49.9	万人 50.0	万人 48.0	55.3	C

【20 年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

鳥取県及び境港市と共同し、米子空港駐車場無料化や米子空港駅待合所の設置を行うと共に、米子空港利用促進懇話会及び米子ーソウル国際定期便利用促進実行委員会等の関係機関と協力し、旅行商品造成支援、山陰観光情報発信、利用促進キャンペーン等の米子空港就航便の利用促進策を行ったが、米国金融市場の危機に端を発した景気後退が深刻化する中、国内における急激なビジネス需要の減退や個人消費の落ち込みが厳しさを増し、ビジネスや観光による航空機利用が減少し、前年を下回る搭乗者数となった。

２０年度の利用者数は空港全体で 480,395 人と対前年比 96.7%、19,612 人の減。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

景気の回復を待ちながら、地道な利用促進活動により利用者数を少しでも増やしていくと共に、現在整備中の滑走路 2,500m 化や羽田空港拡張事業の完成にあわせ、鳥取県や関係団体と協調し、航空会社に対し機材の大型化や増便、新規路線の就航について要望していく必要がある。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
米子市を通るバス路線数【総合政策課】	３０	２７	２７	２７	３０	C

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

・ 赤字路線に対しての補助

・ 国・県に対して補助制度の維持及び充実についての要望

・ 既存路線の収支改善のため、運行時間の変更、運行経路の変更等についてバス事業者と協議

＊ 19年度中（H18.10～H19.9）の廃止・統合路線等

・ 米子ー佐摩線　　利用者減のため１日１往復に減便

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

・ 必要な路線については、今後も補助を継続する。

・ 引続き国・県に対して補助制度の維持・充実について要望をする。

・ 利用実態に即した合理的な運行形態について事業者と継続的に協議を行う。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
米子市のケーブルテレビ網カバー率【情報政策課】	93.9%	100%	100%	100%	100%	A

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成１８年度中に淀江町地区全域へのケーブルテレビ網の敷設を完了し、市内のケーブルテレビ網カバー率は100%となっている。

＜参考＞

ＴＶ加入数：１，２９１　･･･①

インターネットのみ加入数：１０　･･･②

再送信世帯数：１２３　･･･③

接続世帯数（①＋②＋③）：１，４２４（平成２１年５月１日現在）

淀江町地区世帯数：３，２２４（平成２１年５月１日現在の住基世帯数）

接続率：４４．２％

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
コンベンション開催件数【観光課】	件 ２３	件 ２１	件 １３	件 ２６	件 ３０	B

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

コンベンション主催者へ開催支援し、コンベンションの誘致活動、広報宣伝のために、コンベンションビューローの運営に対して運営費負担金を支出するとともにコンベンション誘致会議に参加し、誘致活動を支援した。

また、米子国際会議場の運営管理及び米子駅前簡易駐車場の運営管理によるコンベンションセンター用の無料駐車場を確保し、利用促進を図り、飲食店マップの作成、配付及び観光パンフレットの提供など開催、誘致支援を行なった。

成果

平成２０年度（財）とっとりコンベンションビューローが補助対象とするコンベンション開催件数は、２６件で対前年比２００％と大幅に増加した。

対象とならない誘致件数５１件、参加者数９，９７６人。併せて、７７件、２２，９５７人の参加者を誘致した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

会議、大会等は、毎年定例の開催ではないため、年によって偏りが出るが、補助対象とならないコンベンションの誘致も多く、継続した誘致活動が重要であるので、引き続き、（財）とっとりコンベンションビューローへの支援を積極的に行なう。

また、米子国際会議場の管理、コンベンションセンター用の無料駐車場としての米子駅前簡易駐車場の運営管理及び観光パンフレットの提供等による利用促進を図る。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
コンベンション参加延べ宿泊者数【観光課】	人 8,285	人 12,447	人 4,226	人 11,212	人 10,000	A

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

コンベンション主催者へ開催支援し、コンベンションの誘致活動、広報宣伝のために、コンベンションビューローの運営に対して運営費負担金を支出するとともにコンベンション誘致会議に参加し、誘致活動を支援した。

また、米子国際会議場の運営管理及び米子駅前簡易駐車場の運営管理によるコンベンションセンター用の無料駐車場を確保し、利用促進を図り、飲食店マップの作成、配付及び観光パンフレットの提供など開催、誘致支援を行なった。

成果

平成２０年度（財）とっとりコンベンションビューローが補助対象とするコンベンション開催件数は、２６件で対前年比２００％と大幅に増加した。

対象とならない誘致件数５１件、参加者数９，９７６人。併せて、７７件、２２，９５７人の参加者を誘致した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

会議、大会等は、毎年定例の開催ではないため、年によって偏りが出るが、補助対象とならないコンベンションの誘致も多く、継続した誘致活動が重要であるので、引き続き、（財）とっとりコンベンションビューローへの支援を積極的に行なう。

また、米子国際会議場の管理、コンベンションセンター用の無料駐車場としての米子駅前簡易駐車場の運営管理及び観光パンフレットの提供等による利用促進を図る。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
国際交流に参加したことのある市民の割合【総合政策課】	9.1%	－	9.0%	9.0%	10.0%	D

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

※ 平成２０年度まちづくりに関する市民アンケート結果　9.0%

◎ 行政と民間団体が各種交流事業等を実施した

〔行政〕　・国際理解講座

・中国語・韓国語講座

・韓国語スピーチコンテスト　ほか（延参加人員：約１５００人）

〔民間〕　・江原道東草市青少年ホームステイ交流事業

・東草市野球チームとの親善野球大会

・トライアスロン交流

・バーベキュー交流会

・国際井戸端会議　　ほか（延参加人員：２００人）

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

引き続き、市民ボランティア団体などの活動支援を積極的に行うとともに、上記各種交流事業、講座などの充実（高齢者向けの国際理解講座を検討中）と、市民に対するＰＲの強化に努める。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
地方債未償還残高(臨時財政対策債等特別債を除く。)【財政課】	６００億円	５８５億円	５８８億円	５４０億円	５６０億円以下	A

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

平成２０年度当初予算及び補正予算の編成にあたって、市債の発行を元金償還額以下に抑制し、平成２０年度決算においても地方債未償還残高の低減を達成できる見通しである。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

引き続き、大規模投資的事業の原則凍結等により市債の発行を抑制し、地方債未償還残高の低減を図っていく。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
経常収支比率【財政課】	８７．４	９３．７	９２．８	９３．４	８５．０	Ｄ

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

１　経常一般財源（分母）に大きく影響を与えた要因

平成１９年度歳入との比較において、プラス要因としては、市税が８４百万円、地方特例交付金が１０９百万円、地方交付税が６６８百万円の増となったことなどから、経常一般財源は２３３百万円増となっている。

２　経常経費充当一般財源（分子）に大きく影響を与えた要因

定年退職者の増（４人→１６人）などによる人件費の増、給食業務民間委託などによる物件費の増、後期高齢者医療制度の創設などによる繰出金の増などにより、経常経費充当一般財源は３４０百万円の増となっている。

これらのことから、経常一般財源（分母）が伸びたものの、経常経費充当一般財源（分子）がさらに増加したことなどから、平成２０年度決算における経常収支比率は、昨年度の９２．８％から９３．４％に悪化した。

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

（１）地方税収入の増

目標徴収率の設定（現年９８％、滞納繰越２０％）

（２）歳出の縮減

事務事業の見直し、人件費の抑制

（３）公債費の抑制

大規模投資的事業の原則凍結、プライマリーバランスの黒字化の強化

（４）施設の運営、維持管理経費の抑制

老朽化した施設等の今後の在り方の検討

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
市税の収納率（現年分）【収税課】	97.7%	97.9%	98.0%	98.0%	98%以上	Ａ

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

目標達成のために次の項目について、特に重点を置いて取り組んだ。

- 新規滞納者の発生を未然に防ぐため、滞納の初期段階からの整理を強化
- 悪質滞納者に対しては厳正な滞納処分を実施
- 塩漬債権の解消を図るため不動産公売を実施
- 高額滞納・徴収困難事案等の定期的な検討会の開催
- 徴収職員のスキル向上を図るため各種実務研修会への積極的参加

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

目標としていた徴収率を平成１９年度で達成することができたが、引き続き、これを維持するとともに、更なる向上をめざして滞納整理の強化を図ることとしている。

長年懸案となっている塩漬債権（差押処分を執行したにも関わらず公売実施できないままとなっている債権）の解消に向けた具体的な検討に着手するほか、更なる滞納処分の強化（動産差押、インターネット公売等）を図ることとしている。

指　　標　　名	基準値（H17）	18年度実績値	19年度実績値	20年度実績値	目標値（H22）	目標達成度
人口１万人あたりの職員数【職員課】	69	68.5	66.9	66.2	65	B

【20年度中の取組み状況及び成果などを具体的に記述】

技能労務職員（給食調理業務）の職種転換の推進

定年前早期退職制度の時限的特例措置

【目標実現のための方策・スケジュール・方向性などを具体的に記述】

次に掲げる手段により新規採用を抑制（退職者の一部不補充）し、職員数を削減する。

①事務事業の縮小・廃止及び民間移管の推進

②事務事業の効率化及び民間委託の推進

③技能労務職員の職種転換の推進

H17.4.1職員数	H18.4.1職員数	H19.4.1職員数	H20.4.1職員数	H22.4.1目標職員数
1,035人	1,026人	1,001人	987人	978人